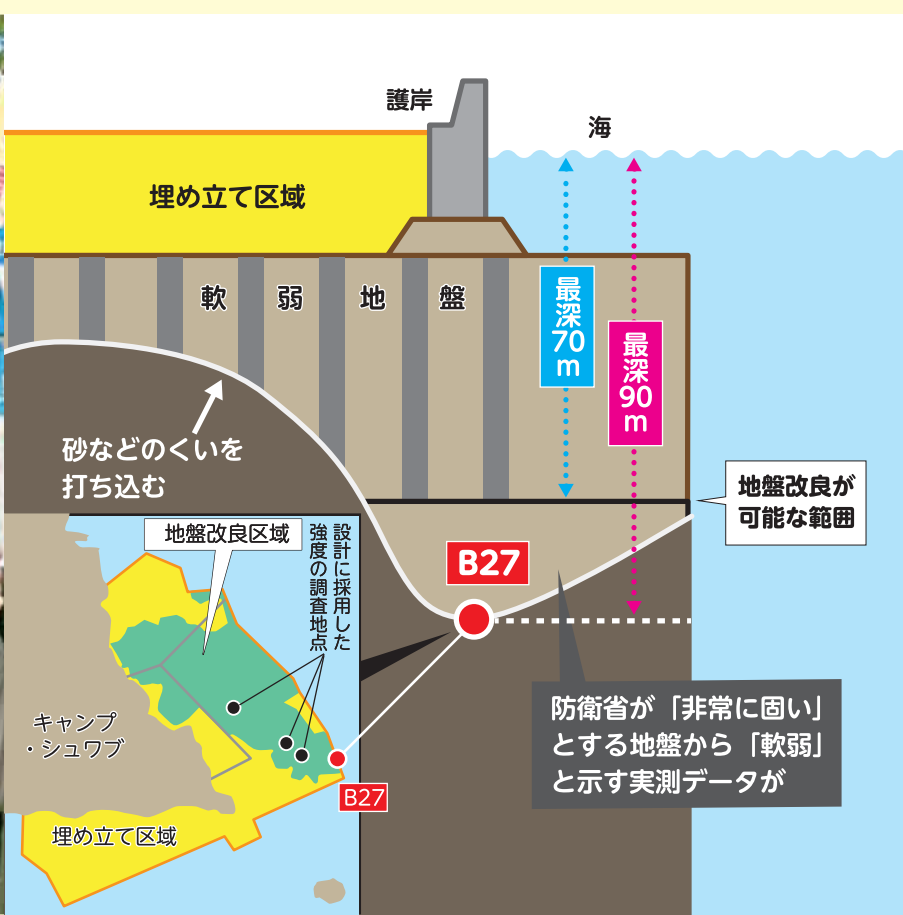


# 辺野古新基地工事を中止し、沖縄県と話し合いを



大浦湾には絶滅危惧種262種をはじめ5334種の生物が生息しており、国内外から埋め立て反対の声が上がっています(写真提供:しんぶん赤旗)。



辺野古新基地で防衛省が計画している地盤改良案

安保破棄中央実行委員会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13 MMビルⅡ 502  
電話 03-3264-4764 E-mail: anpohaiki@nifty.com

署名にご協力ください

# 代執行による辺野古新基地建設工事中止と 普天間基地の無条件撤去を求める請願

衆議院議長 様

参議院議長 様

【紹介議員】

## 請 願 趣 旨

政府は、沖縄県名護市の大浦湾で米軍辺野古新基地建設工事を進めています。

この工事は、2021年11月に沖縄県知事が不承認とした、軟弱地盤改良工事のための設計変更を国土交通大臣が2023年12月に「代執行」で「承認」して行われているものです。

「代執行」で実施される工事には大きな問題があります。

政府は2014年の工事着手以前から把握していた軟弱地盤の存在を隠ぺいして工事を続け、2020年になって設計変更を申請しました。その軟弱地盤は水深90mにまで広がっていますが、現在の技術では水深70mまでしか改良ができません。地質学の専門家からは工事中にも崩落する可能性が指摘されています。

また、サンゴなど稀少種を含む5300種類以上の生物が生息する大浦湾を埋め立てることは公有水面埋立法からみても大きな問題があります。

そのような状況を踏まえて設計変更申請を沖縄県が不承認にしたのは当然のことです。

政府が、「世界一危険」だとして、沖縄県宜野湾市にある米軍普天間基地の返還を打ち出してからすでに28年以上が経過しています。最近の政府の試算によっても新基地引き渡しまでに今後12年かかるとされており、政府の言う「一日も早い普天間基地の危険性除去」は実現できません。

辺野古新基地建設工事は、この間の沖縄県知事選挙や2019年実施の沖縄県民投票で表明された、新たな基地建設のための埋め立てを拒否するという沖縄の民意を踏みにじるものであり、許されません。また、憲法で保障された地方自治体の権限を踏みにじる点でも大きな問題があります。

以上により、下記事項の実現を求めます。

## 請 願 項 目

1. 辺野古新基地建設工事を中止すること。
2. 普天間基地の即時閉鎖・無条件撤去をアメリカに求めること。

氏 名	住 所

取り扱い団体

【送付先】 安保破棄中央実行委員会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13 MMビルⅡ 502